

市民クラブ 永戸 孝之 議員

届かない支援への取り組み(新たな仕組みづくり)について

(質問) ヤングケアラー(若者介護)支援について、厚生労働省と文部科学省は昨年から今年にかけて短期間で全国中高生のヤングケアラー調査を実施し、結果、考察、支援策を発表した。これを受けて持続可能な仕組みは何と考えるか。

(答弁) この研究報告を受け、国はヤングケアラー支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチームを立ち上げた。今後は、早期発見把握、支援策推進、認知度の向上に取り組む。支援については、福祉・介護・医療・教育の連携が必要と考える。
その他の質問 ○公共事業の民間活用



れいめい 池田 憲彦 議員

GIGAスクール構想について

(質問) GIGAスクール構想の実現に向けICT環境が整備され、本格的なICT機器の活用が始まったが、ICT教育に関する教職員研修と教育委員会の体制はどうなっているのか。

(答弁) 国が目指す個別最適化の学びと協働的な学びの実現を目指し、教職員一人一人の資質・能力向上に関する研修体制を整え、学校への指導や支援の充実を図る。また、教職員が活用する1人1台端末にICT利活用に特化したサイトを設置し、活用事例などの情報発信や情報交流を行う計画である。

その他の質問 ○若者の「社会的孤立」



市民の声 田中 淳一 議員

選挙に関する取り組みについて

(質問) 前回の統一地方選挙における期日前投票の利用状況を比較すると、庄野投票地区は約23%、栄第3投票地区・白子第1投票地区は約7%である。南部投票地区の有権者数は、本市の全有権者数の約30%であるが、なぜ期日前投票所を設置しないのか。

(答弁) 選挙人の利便性の向上、あるいはコロナ禍における選挙執行の観点からも、投票環境の改善を図ることが期待できることから、白子地区を中心とした南部地区において拠点機能を有する、白子地区市民センターでの期日前投票所の増設に向け準備を進める。



市民クラブ 中村 浩 議員

水道料金等軽減(免除)について

(質問) 水道料金等軽減(免除)決定通知書に記載の鈴鹿市水道料金等の軽減又は免除取扱規程第8条第2項の規定の意味と漏水に関する対応は。

(答弁) 水道使用者が給水装置を適切に管理していたにもかかわらず、給水管の損傷などで、漏水が発生した場合には、規程に定めるとおり減免を実施している。

また、配水管の破損事故などにより、宅内で濁り水が発生した場合は、水道使用者に放水を依頼して、放水分の水量を控除している。昨年度の漏水は約840件、約600万円を減免した。



れいめい 田中 通 議員

小中学校周辺の安全確保について

(質問) 長年、地域が危険性を懸念してきた若松小学校北門前の交差点で、4月に児童が重大事故に遭った。学校が把握している危険箇所はどのように管理・周知されているのか。また、鈴鹿市通学路交通安全プログラムはどのように機能しているのか。

(答弁) 学校が危険と感じている箇所の共有を図りつつ学校と教育委員会、関係機関との連携を推進し、同プログラムの仕組みを生かし、子どもたちの安全安心の確保に努める。

その他の質問 ○PCB含有廃棄物への対応
○指定管理者や外郭団体のチェック体制



諸 派 高橋 さつき 議員
(日本共産党)

生活保護について

(質問) 生活保護の申請者を扶養できるかどうかを親族に連絡する「扶養照会」は、申請をためらう原因の一つとなっている。扶養照会は義務ではない。厚生労働省の通知には、扶養照会を拒絶する申請者本人の意向を尊重すべき旨の規定も追加されたと考える。照会をする前に、申請者本人の同意を得ること、拒絶する場合は本人の意思を尊重し見合わせるよう求める。

(答弁) 要保護者の立場に立って寄り添い丁寧に聞き取るが、扶養照会の同意を事前に得ることは考えていない。

その他の質問 ○校則と子どもの権利

